

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和3年2月26日

事業所名 放課後等デイサービス事業所 サン. プレイス

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である		7	学習や活動スペースの十分な確保がされている。	
	2	職員の配置数は適切である		7	基準以上の職員配置を行っている。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	3	2	自力移動の児童を対象としているが、段差等も安全面の確保のため、見守りができるように職員を配置している。	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	5		会議も含め、毎朝共有事項内容の確認と、児童の気になる部分の共有。	児童に関する積極的な意見を職員から発信し、議題として話し合い、共有して一貫した質の高いサービスにつながることを目標としています。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6			アンケートに加え、保護者の思いを日頃から送迎等で知り、真摯に受け止めた上で業務の改善を行う。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6			つなぎのホームページにて情報公開を行っている。(※一般社団法人つなぎで検索)
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	1	5		現状で予定はないが、必要に応じて検討する。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6		必要に応じた研修参加を提案し、手当を支給している。任意の研修についても個々の成長につながるよう動いている。	現在コロナの影響により、中止の研修が多いが、今後も研修参加の機会を作り、職員の学びたい気持ちを育んでいく。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	6		児童や保護者のニーズを常に把握し、生じた変化に対応し、計画の変更を行っている。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	4		全事業所で共有した様式を使用している。	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	5		常に話し合いを行っており、対応している。	職員が積極的に話し合える環境を目指しているので、現状では一つのチームとして動いている。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5		児童の興味やストレスに着眼して計画を立てている。	しっかりとニーズを把握していくために、日ごろからの関わり、保護者の意見をくみ取って、プラン作成に活かしていく。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	6		児童個々の成長やニーズに併せて、学習課題や余暇の過ごし方などプログラムに取り入れている。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	4		成長とニーズの変化に対応して計画を作成している。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6		毎朝ミーティングをしている。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	7		振り返りの時間を取って共有している。	常に出てきた課題、ニーズを把握して、全体が共有して支援に活かしていく。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	4		支援の中で記録を取っていきながら、振り返りや検証につなげている。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	6		定期で会議することに加えて、毎月スモール会議を行っている。	
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	3			ガイドラインの見直しと放デイについて改めて目標にする。	

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5		児童発達支援管理責任者にて参加。	職員も積極的に参加して、情報を共有していくことを目標とする。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	6		下校表を頂いている。 その日の学校の様子など簡単な情報交換。	学校との情報のやり取りの少なさが見られるので、より共有できる場面を増やしていく。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	1	2		現在医療的ケアを要するお子様がいない。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	5		現状では相談支援機関を介して情報の共有を行っている。	個人情報には十分に配慮した形で、相談支援事業所を介して情報を頂いています。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	5			現在学校を卒業された児童の該当なし。 そのような状況が出た際には、大前提として保護者様のご同意を頂いた上、情報提供を行っていきたく思っております。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	4			関りが少ないが、必要に応じて検討したい。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	1	4		現状で関わる機会がない。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	2			参加をしている中で、職員に興味のある課題については積極的に参加
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6		毎日の送迎時と連絡帳に引き継ぎ、電話相談や担当者会議を通じて共有している。	
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	3			保護者との関わりの中で、相談等ある際には、支援に対応できる形をとる。	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6		事前面談と契約時に説明している。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6			
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	3	1		
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	6			
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	1		パンフレットやHPへの掲載、連絡体制については文書にて各家庭に配布している。	
	35	個人情報に十分注意している	4		個人情報研修会の開催と、個別に係る書類を鍵付きの保管している。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5		言葉だけでなく、文字や絵を活用した視覚的な配慮を行っている。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	2	2	大イベントの際には自治会を通じて地域に周知している。	

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	4	見えやすい場所に掲示している。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7	防犯訓練や避難訓練実施。様子を送迎時や連絡帳を通じて伝えている。感染症については年1回の研修を開催している。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6	内部研修とフィードバック研修を行っている。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している			現在身体拘束の状況がありません。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	4		アレルギーのあるお子様の状況があれば、医師の指示所に従い、対応を行っていく。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6	報告書の回覧、会議を開催し、KYTも活用して共有を図っている。	事故対策会議、ヒヤリハット会議を行い、改善に向けて共有している。

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和3年2月26日

事業所名 放課後等デイサービス事業所 サン. プレイス

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		学習や活動スペースの十分な確保がされている。	
	2 職員の配置数は適切である	○		基準以上の職員配置を行っている。	
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		○	自力移動の児童を対象としているが、段差等も安全面の確保のため、見守りができるように職員を配置している。	
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		会議も含め、毎朝共有事項内容の確認と、児童の気になる部分の共有。	児童に関する積極的な意見を職員から発信し、議題として話し合い、共有して一貫した質の高いサービスにつながることを目標としています。
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			アンケートに加え、保護者の思いを日頃から送迎等で知り、真摯に受け止めた上で業務の改善を行う。
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			つながりのホームページにて情報公開を行っている。(※一般社団法人つながりで検索)
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		現状で予定はないが、必要に応じて検討する。
8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		必要に応じた研修参加を提案し、手当を支給している。任意の研修についても個々の成長につながるよう勤めている。	現在コロナの影響により、中止の研修が多いが、今後も研修参加の機会を作り、職員の学びたい気持ちを育てていく。	
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		児童や保護者のニーズを常に把握し、生じた変化に対応し、計画の変更を行っている。	
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		全事業所で共有した様式を使用している。	
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている		○	常に話し合いを行っており、対応している。	職員が積極的に話し合える環境を目指しているので、現状では一つのチームとして動いている。
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		児童の興味やストレスに着眼して計画を立てている。	しっかりとニーズを把握していくために、日ごろからの関わり、保護者の意見をくみ取って、プラン作成に活かしていく。
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		児童個々の成長やニーズに併せて、学習課題や余暇の過ごし方などプログラムに取り入れている。	
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		成長とニーズの変化に対応して計画を作成している。	
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		毎朝ミーティングをしている。	
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		振り返りの時間を取って共有している。	常に出てきた課題、ニーズを把握して、全体が共有して支援に活かしていく。
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		支援の中で記録を取っていきながら、振り返りや検証につなげている。	
18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		定期で会議することに加えて、毎月スモール会議を行っている。		
19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	○			ガイドラインの見直しと放デイについて改めて目標にする。	

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		児童発達支援管理責任者にて参加。	職員も積極的に参加して、情報を共有していくことを目標とする。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		下校表を頂いている。 その日の学校の様子など簡単な情報交換。	学校との情報のやり取りの少なさが見られるので、より共有できる場面を増やしていく。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		○		現在医療的ケアを要するお子様がいない。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている		○	現状では相談支援機関を介して情報の共有を行っている。	個人情報には十分に配慮した形で、相談支援事業所を介して情報を頂いています。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		○		現在学校を卒業された児童の該当なし。 そのような状況が出た際には、大前提として保護者様のご同意を頂いた上、情報提供を行っていきたいと思っております。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		○		関りが少ないが、必要に応じて検討したい。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○			現状で関わる機会がない。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している		○		参加をしている中で、職員に興味のある課題については積極的に参加
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		毎日の送迎時と連絡帳に引き継ぎ、電話相談や担当者会議を通じて共有している。	
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		○		保護者との関わりの中で、相談等ある際には、支援に対応できる形をとる。	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		事前面談と契約時に説明している。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○			
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○			
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○			
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		パンフレットやHPへの掲載、連絡体制については文書にて各家庭に配布している。	
	35	個人情報に十分注意している	○		個人情報研修会の開催と、個別に係る書類を鍵付きの保管している。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		言葉だけでなく、文字や絵を活用した視覚的な配慮を行っている。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		大イベントの際には自治会を通じて地域に周知している。	

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している		○	見えやすい場所に掲示している。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		防犯訓練や避難訓練実施。様子を送迎時や連絡帳を通じて伝えている。感染症については年1回の研修を開催して	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		内部研修とフィードバック研修を行っている。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している		○		現在身体拘束の状況がありません。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		○		アレルギーのあるお子様の状況があれば、医師の指示所に従い、対応を行っていく。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		報告書の回覧、会議を開催し、KYTも活用して共有を図ってい	事故対策会議、ヒヤリハット会議を行い、改善に向けて共有している。